

桐生市議会 教育民生委員会 行政視察報告書

視察都市 埼玉県上尾市（人口 229,995 人 令和 6 年 3 月 1 日現在）

視察日時 令和 6 年 5 月 14 日（火）
午前 9 時 30 分 ～ 午前 11 時 00 分

視察項目 ・子ども・子育て支援複合施設（AGECOCO）について

◎視察概要

上尾市の子ども・子育て支援複合施設（AGECOCO）について、子ども未来部 部長 野崎 孝幸 様よりご説明して頂きました。

（１）説明要旨

１．施設整備に至った背景について

上尾市の西上尾第一、西上尾第二保育所の施設の老朽化が著しく、耐用年数が目前に迫っていたことや、低年齢児の保育ニーズへの対応が課題であった。また、発達支援相談センターでは、つくし学園の通園を希望する児童の増加による定員超過および施設の老朽化の進行の他、所在地が市の北西寄りであったことから、通園バスの送迎に一定の時間を要する課題と、相談支援・地域支援を担当するグループと離れた場所で、分散して業務を行っている経緯があった。更に子ども・子育て支援複合施設として 4 施設を統合した背景には、これらの課題を解消する目的があった為であった。

２．建設工事の概要について

- ・ 平成 31 年度 基本設計
- ・ 令和 2 年度 実施設計
- ・ 令和 3 年度 建設工事着手
- ・ 令和 5 年 1 月 建設工事完了
- ・ 令和 5 年 4 月 オープン
- ・ 建設にかかる事業費総額 約 20 億円

3. 複合施設の三つの機能について

①大谷西保育所

- A. 基本的な生活習慣を身に付けています。
- B. 「リズム遊びとうた」に取り組んでいます。
- C. 四季を通じて園外への散歩を取り入れています。

②発達支援相談センター

児童の発達に関する相談に応じ、発達や行動面に不安や課題のある児童を心身ともに健やかに育成するための支援を目的とする。

③児童発達支援センターつくし学園

早期からの療育・保育を行うことで園児の心身の成長を促し、基本的な生活習慣を身に付け、個々の力を伸ばすことを目的とする。

◎複合施設のねらいについて

園庭・ラウンジを共有し、日々の保育や季節行事を通じて、交流保育を実現した。また、医療的ケア児の保育を実現した。日常的な医療ケアを行いながら、療育・保育を受ける体制の整備を行った。更に切れ目のない発達支援を行い、発達の実態への気づきから「専門的な療育」まで、一貫した支援が可能となった。

その他に「地域インクルーシブの推進」で地域との交流イベントを定期的に開催し、子どもたちの豊かな人間性を育む保育を行っている。

4. 運営面での工夫について

- ・効果的かつ安全に交流が図れるよう、大谷西保育所とつくし学園で月1回打ち合わせを実施している。
- ・保育所の送迎が集中する時刻と、つくし学園の送迎バス発着時刻が重ならないよう設定している。
- ・保護者が参加するイベントは人数が大変多くなることから同日に開催せず、互いの開催日に可能な範囲で園児を招待するなどの工夫をしている。
- ・子どもと職員で行う季節の行事、避難訓練は、大谷西保育所とつくし学園合同で行っている。

5. 複合施設の特徴について

- ・インクルーシブ遊具を園庭に設置し、体の障害に関係なく誰もが一緒になって遊ぶことが可能である。
- ・熱中症対策として、園庭にミストシャワー設置した。
- ・広いベランダやウッドデッキを活用して、外遊びの代替えが可能となる。
- ・太陽光パネルの設置し、玄関ホールのモニターで発電電力の確認が可能となった。
- ・出入口に体温センサーを設置し、玄関ホールのモニターで確認可能である。
- ・広い共有ラウンジを設け、照明の色を四季や行事などに合わせ光色切替が可能である。

6. 交流保育から感じられる効果について

◎大谷西保育所の子どもたちは

- ①障害があり、装具をつけている子どもに対して、保育者が説明をすることなく、一緒に過ごす中で自然に理解し受け入れている。
- ②歩くことに時間がかかる子どもについて、共に過ごす中で理解し、待ったりゆっくりすることを自然に身につけられている。

◎つくし学園の子どもたちは

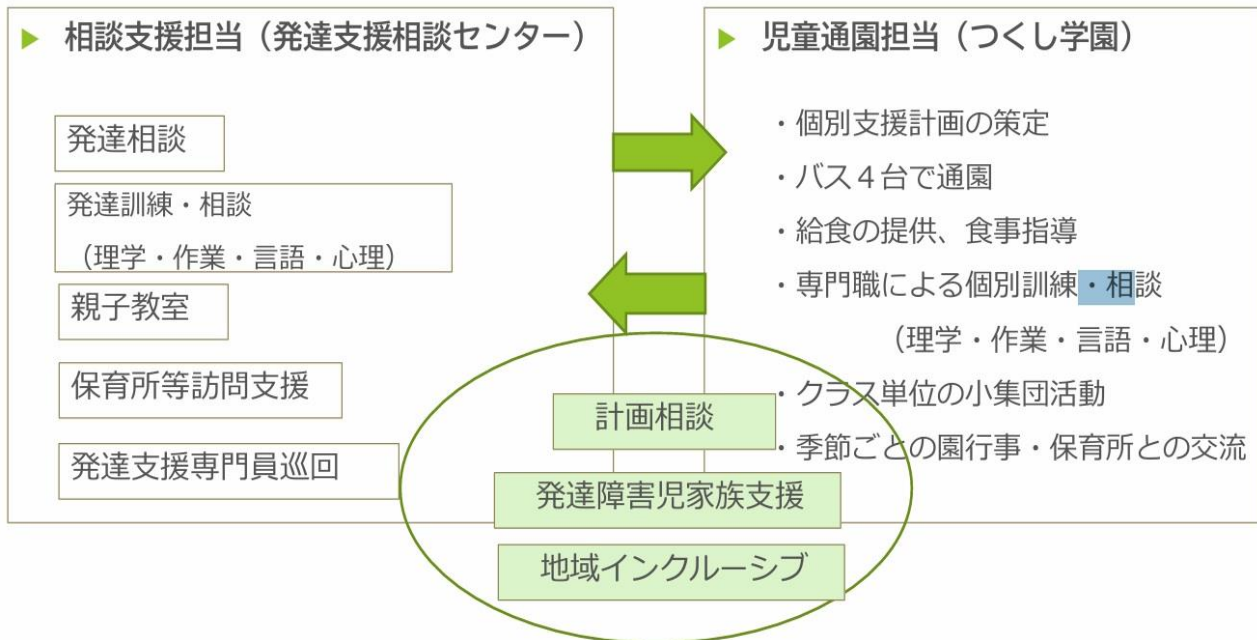
- ①保育所の子どもたちが遊ぶ様子を見たり、遊びを真似してみたりなど、多くの刺激をもらうことで、成長に繋がっている。
- ②周囲の人への関心が育ち、人を気にしたり、声をかけられたときに返事を返そうとする等、コミュニケーションの意欲が向上している

7. 医療的ケア児の受け入れ状況について

◎つくし学園において

- ・日常的に医療的ケアが必要な園児を現在は4名を受け入れている。その他、痙攣がおきた際に座薬を挿入する指示を受けている。
- ・経管栄養および吸引などの医療的ケアについては看護師が対応しており、対応にあたっては、担当看護師が児童の主治医から疾患やケアに関する注意事項を伺うとともに、保護者から体調等について丁寧な聞き取りを行い、一人ひとりの症状に合わせた対応を心がけている。
- ・担当以外の看護師でも対応できるよう複数でケアに当たることや、研修を受講する等の育成を行っている。

8. 切れ目のない発達支援



9. 地域インクルーシブの推進について

- 令和4年6月改正児童福祉法成立、令和6年4月施行されたことで、児童発達支援センターに「地域のインクルージョンの中核機能」が求められた。
- 令和5年4月 AGECCO オープンにより、子どもたちが交流を通じて多様性を認め合い、豊かな人間性を育むことを願い、設立。施設内において日々交流を勧めてきた。
- 地域インクルーシブの推進へ令和5年度は、12月と2月に「AGECCO ラウンジで遊ぼう」を試行的に開催し、令和6年度からは定期的で開催して行く。

(2) 主な質疑応答（現地含む）

	質問事項	回答
1	子ども子育て支援の複合化により別々で事業を行う場合と比較してどれほどの経費削減を見込んでいるか？	複合化に当たっては、大谷西保育所、つくし学園ともに定員を拡大しており、経費削減が主たる目的ではなかったところです。別々で事業を行う場合との経費削減額は試算しておりませんが、用地では園庭、駐車場、建物では出入口、給食室、職員更衣室、洗濯室、用務員室を共有し、施設管理に係る部分も共有で行い、効率化を図っております。 また、調理室の共用により、それぞれ別々で調理を行うよりも調理員数の効率化が図れたと考えています。調理員を集約化できたことで、午後のおやつや清掃などにおいて効率良く行えるようになったことに加えて、土曜日の調理員のローテーションが緩やかになったことがあげられます。
2	発達支援相談センターと小学校、中学校との連携はどのように行われているか？	当センターの相談を利用している児童の保護者に対して、教育センターや特別支援学校の担当者を招いて、就学についての学習会を行っています。また、当センターを利用している児童の状況を把握していることから、教育センターが行う就学支援委員会に委員として出席しています。 さらに、必要に応じて保護者の同意のもと、個別相談の内容を小中学校と情報共有を図るなどの連携を行っています。
3	発達支援相談員は何名体制でどのような資格者が行っているか？ またその支援員はプロパーか？	発達支援に係る相談は、職員5人の体制で行っています。職種は保育士（正職員）、社会福祉士（正職員）、保健師（正職員、会計年度任用職員）、看護師（会計年度任用職員）です。 なお、そのうち、3人（社会福祉士、保健師、看護師）が相談支援専門員として、障害児支援利用計画（ケアプラン）の作成を行っております。

4	いわゆるボーダーと呼ばれる子供たちの対応はどのようにされているか？	発達支援相談センターでの相談の多くは、いわゆるボーダー（境界域）と呼ばれる児童が対象となります。保護者からの相談主訴を踏まえ、各専門職による個別相談を紹介します。個別相談の中で専門職が「集団の練習が有効」と認め、保護者が希望した場合に、親子教室への入室と進みます。相談を重ね保護者の理解が進んでいく中で、児童の状況によっては保護者が受診を判断し、診断を受けるというケースも多くあります。 なお、公立・私立の保育所に通う（ボーダーと考えられる）児童に対しては、担当保育士が保育の手立てを相談できるよう、発達支援専門員巡回事業を実施しています。
5	つくし学園は発達に障害のある子どもを専門的に受け入れる施設か？	つくし学園は、発達に不安があるお子さまや障害があるお子さまの心身の成長を促し、基本的な生活習慣を身につけ、個々の力を伸ばしていくことを目的とした、児童福祉法に位置付けられている児童発達支援センターです。 入園にあたっては、入園審査会を開催し、入園申請のあった児童一人ひとりにつき、入園が適当であるか審議し、入園を決定しております。

（３）参考となる点及び課題

◎視察成果による当局への提言または要望等

上尾市では新しい時代に向けたまちづくりを進めていく中で、子ども・子育て支援政策として、「１．上尾市立大谷西保育所」と「２．発達支援相談センター」とさらに「３．児童発達支援センターつくし学園」の３つの複合施設を併設した「AGECOCO」をオープンしており、今回はその施設の取組について行政視察させていただいた。これらの施設を１ヵ所にまとめ、保育における共存共栄を行った運営を実施したことが先進の取組と考える。未就学児においても最近では、多様性を尊重した保育、また、インクルーシブ教育のシステム構築を推進する特別支援等は、これから本市でも取り組むことが必要と考える。ただし、その施設の建設にかかる事業費総額の約 20 億円を上尾市の様に市の単独事業費用で賄うことは本市で難しいと思う。そこで、先進の取組と併せて、国や群馬県と連携を図り、今後は本市の施設老朽化のタイミングでこの様な複合施設を創ることを市当局にご提案して行きたい。